

第三回 大東文化大学書道学科「三年生ゼミ制作展」報告記

高木 厚人

平成十六年十二月二十一日から二十三日までの三日間、成増アートギャラリーにて書道学科三年生による「三年生ゼミ制作展」が開かれた。三日間という短い期間ではあったが作品制作から展示、会場運営、撤去にいたるまで、学生たちは一致団結し、熱い思いでこの一つの行事をこなしていったように思う。

東松山での基礎学習を終えたあと、板橋にきて専門に分かれて学びはじめたとはいえ、本格的な作品制作は今回初体験という学生も多かった。書作を対しての経験の差はあったと思うが、それ故に励ましあいながら、仲間に揉まれながらの作品制作は各々大きな自信につながったようだ。それこそゼミ展の成果といえよう。

会期中多くの先輩、諸兄そして学生を見守って下さる先生方がおいで下さり、会場は懇親の場にもなった。

ところで指導にあたった教員が最も心配していたのが作品である。しかし今回発表された作品には学生たちの日頃の力、努力が反映されており、これまでの学生たちの書に対する取り組み方が適切であったことを物語っていたように思う。

この三回生ゼミ制作展は今回で三回目である。「書作コース」ゼミ所属の学生は主ゼミで指導をうけ、「書学コース」ゼミ所属の学生は副ゼミとして選択している「書作コース」ゼミでの指導をうけ、作品を制作した。「書作」「書学」の区別なく、作品制作に向かえるのは書道学科の特色の一つでもある。

さて、今回も各ゼミ長にゼミ展への取り組みをまとめ、書いてもらった。各自、自身の作品についてのコメントも提出してもらっているのであわせて紹介したい。

○漢字作品制作演習（新井儀平ゼミ）

授業のテーマは、展覧会に出品しても通用する作品を制作する。ということ、今日の展覧会で、最も一般的なサイズである、二尺×八尺というサイズで、はじめから一年間ずっと取り組んできました。前期は主として臨書を行いました。臨書といってもただ臨書を大きい紙に書くわけではなく、自らの得意とする古典を、ひとつの作品として、表現する。ということを目指し取り組み、夏の合宿で、仕上げとしました。

後期は、創作・臨書を問わず、このゼミ展に向けて、作品制作に取り組んできました。自分の書きたい作品イメージに
適うよう、構成や、潤濁や大小などを工夫してきたので、その試行錯誤が作品に見えたら良いと思います。とにかく、書
いて書いて書きまくった一年間でした。

(小島慎哉)

○漢字作品制作演習 (田中裕昭ゼミ)

このゼミで、書を学ぶことを通じて、書を愛する心や書の文化伝統を尊重する態度を育てると共に感性を磨き、創造的
な表現力を目指す。前期では、楷書、行書、草書の古典名碑帖を中心とした基礎的な臨書から始め、紙も半紙から半切へ
と徐々に拡大し、創作的な臨書と奥深い漢字作品制作両面から、段階的に学び、ゼミ生の集中力、研究心などを養い、精
神面での向上も目指す。前期を終えた後は、自分で詩文を選び、創作を目指す。夏のゼミ合宿から、後期へ字典などから
集めて、作った草稿を手元において、二尺×八尺の紙にゼミ展作品を制作し、個性豊かな表現が求められ、創作活動を計
画的に進めてた。

(薛中超)

○仮名作品制作演習 (高木厚人ゼミ)

前期・後期通して古典学習を大切にしてきました。そして、各自で決めた古典を基に、臨書から創作へのプロセスを
追ってきました。前期は、俳句を「中務集」から集字したものをもとに、半切に大字仮名を書きました。大字仮名は、大
部分の人が初めてに近い状態からのスタートでした。集字の作業も、はじめはとても時間がかかっていましたが、毎週課
題をこなしていくうちに大字仮名作品を書くうえで知識も身につけてきました。夏の合宿では、大字仮名と平行して行っ
ていた古典の臨書を四メートル分仕上げることを目標に、集中してがんばりました。

後期は、ゼミ展に向けて作品制作に取り組んできました。夏に仕上げた臨書作品をもう一度書き直したり、二尺×八尺に
挑戦したり、二尺×六尺に歌を散らしたり、色紙を張り合わせたりと様々な形態の作品に挑戦しました。この一年の成長
ぶりが今回のゼミ展の作品にとっても反映していたと思います。

(鈴木美香)

○漢字仮名交じり作品制作演習 (齋藤公男ゼミ)

前期は好きな古典を選び、その臨書に力を入れることを大切にしました。そして、選んだ古典を基に書きたい作品イメー
ジを膨らませました。漢字寄りの調和体・仮名寄りの調和体で各自が選ぶ古典も変わってきます。

夏合宿では、前期で学習した古典とそれを基にした作品制作の実践に取り掛かりました。秋には錬成会を開き、先輩方と
作品に対する意見交換をしました。

後期は、ゼミ展に向けて本腰を入れました。各自の作品の形態が違うので、先生から批評をいただく時に何度も目から

うろこでした。漢字仮名交じり書は、現代人の普段着の文字であるからこそ、古典とはかけ離れてしまう難しい分野でもあります。その問題点について皆で模索した一年だったと思います。
(末岡沙織)

○篆刻作品制作演習（河野 隆ゼミ）

前期のゼミでは、蘭亭叙の分刻作品に取り組みました。今回のゼミ展では、印材と一緒に展示しました。夏季学内研修では、模刻、創作、及び刻字に取り組みました。また、その後の夏季ゼミ合宿では、城ヶ島に宿をとり、模刻、側款、側款の採拓をテーマに二泊三日を過ごしました。とても天気もよく、海も綺麗で、気持ちよく制作に打ち込むことができました。

後期はゼミ展に向け、新たな気持ちで創作印、印矩制作に取り組みました。印矩は、みんなそれぞれの用材に、瓦当などを応用し、デザインを工夫しました。彫刻は外部のレーザー彫刻に外注し、金銀箔や顔料で着色加工して仕上げました。いろいろな事に挑戦した一年だったので、その経験を生かし、より一層頑張っていきたいと思っています。
(下田葵)

「Aクラス」

・池田和嘉子 創張説の詩（漢字）

まだまだ通過点です。

・岩戸志保美 方澤詩（漢字）

墨を多くのおせ、迫力のある作品にしようと心掛けました。

・梅田悠希 スマップ『夜空ノムコウ』（漢字仮名交じり）

散らし方や文字の変化のつけ方に苦労しました。

・岡田幸枝 臨香紙切（仮名）

作品を書き終わって、新たな課題が見つかりました。今後この反省を生かしていきたいと思っています。

・岡松竜平 臨史頌殿（漢字）

線が軽くならないように書きました。

・上遠野智深 陶淵明詩（漢字）

まだまだ未完成だと思っています。

・草地泰大 万葉集二首（仮名）
何度も構想を練った作品。今の私の精一杯の作品である。

・櫛田鮎美 臨深窓秘抄（仮名）
初めて時間をわすれて書き上げた作品。墨色に気をつかって書きました。

・熊谷加代 杜甫詩（漢字）

二×八の作品を書くのは初めてでいろいろ戸惑いました。特に墨の量に気を付けて書きました。

・酒井綾子 臨張猛龍碑（漢字）

元氣よく書きました。

・佐藤綾香 はるがすみ（仮名）

この作品で、細字の楽しさを改めて実感することが出来ました。

・清水亜希子 直哉惟精（篆刻）

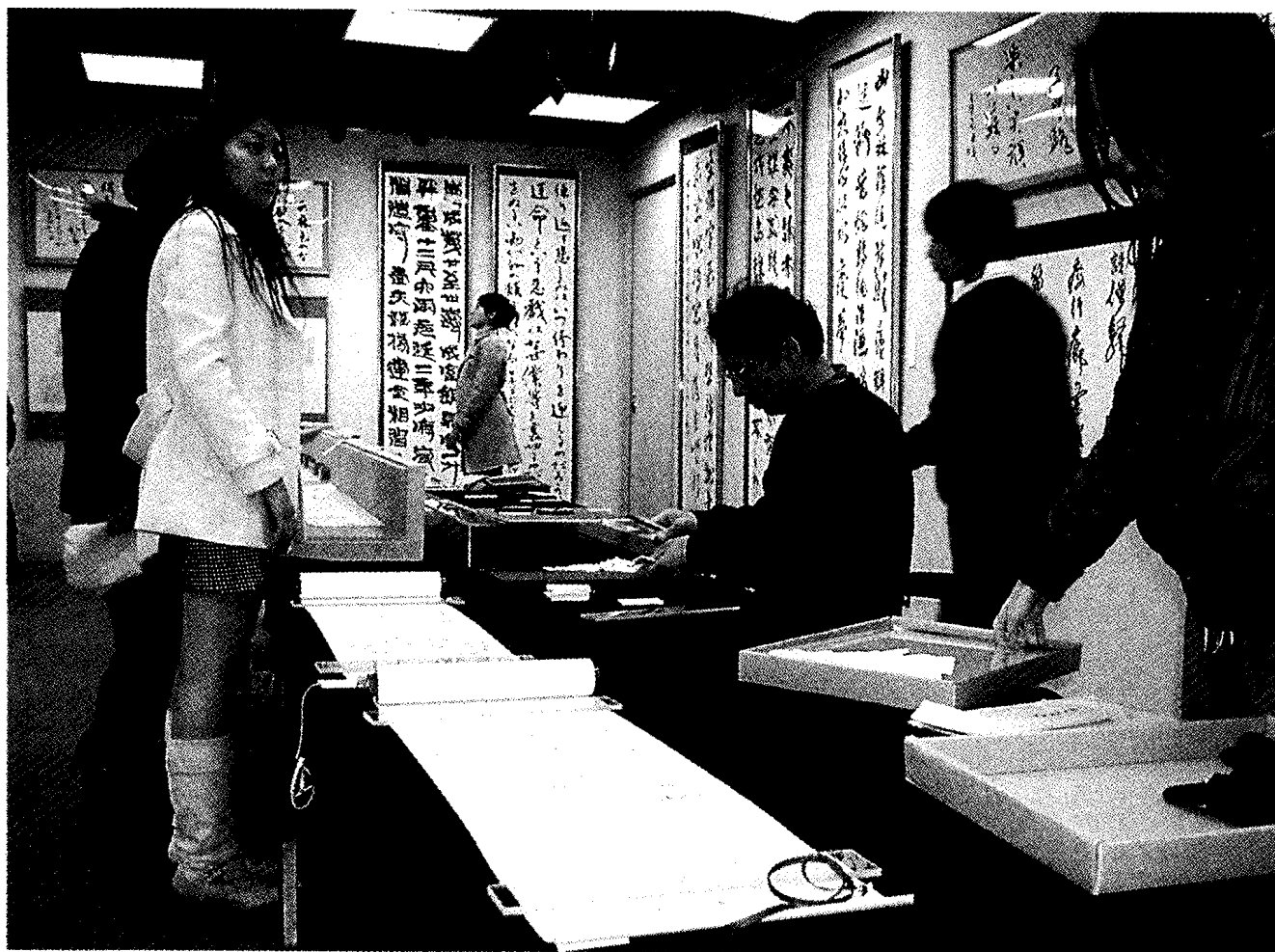
初めて一寸以上のものを彫ったので、逆に楽しく彫れたと思います。

・末岡沙織 自作詩（漢字仮名交じり）

世の中に対する気持ちを自作詩にしました。

・鈴木沙織 臨高野切第一種（仮名）

自分が一年間制作してきたものを作品として発表し、たくさんの人に見てもらえる機会があつてよかつたと思う。



学生による陳列風景

・鈴木孝江 ヴィレッジ・シンガーズの唄
(漢字仮名交じり)

仮名のイメージを意識しました。

・田中沙耶 處其厚 (篆刻)

次はもっと時間的余裕を持ち、一段上の
違った作品作りに挑戦したい。

・塚田佳代 臨貉子占 (漢字)

墨がのっておらずまだまだ未完成です。

・富山由紀 ぐるら『GO BACK TO CHINE』
(漢字仮名交じり)

張瑞図のイメージで書きました。

・中村拓也 臨郭店楚墓竹簡 (漢字)

気合を入れて書きました。

・早川美香 臨石鼓文 (漢字)

練習不足が字に現れてしまいました。

・東島江美 万葉のうた (仮名)

初めて二×八の紙に大字作品を書いた。今
までと違うやり方に戸惑ったが、これを機
にこれからも挑戦していきたい。

・星康子 銭起の詩 (漢字)

文字の大きさと墨量に変化を出すように
気をつけた。

・前田裕子 臨深窓秘抄 (仮名)

四メートル近くの作品を書くのに集中力
が続かず大変でしたが、形にすることが出



展示風景

来てよかったです。

・山口恵美 七言絶句（漢字）

温かみのある作品になる様意識しました。

・山本正樹 臨大孟鼎（漢字）

空間を意識して書きました。

・横田ちえみ 避暑高樓（篆刻）

台湾の景色の思い出を姚合の詩句で表現してみました。勢いよく彫れなくて苦勞しました。

・若原彩子 獨往（篆刻）

「獨往」という言葉が自分にぴったりで気に入っています。

・林雲峰 大燈図師遺誠（漢字）

線質の変化に注意し、大胆な作品にした。

〔Bクラス〕

・新井節子 あかつき（仮名）

初めての二×六の作品。暗中模索しながらもイメージを大切に表現しました。

・伊藤絵美 盧照鄰詩（漢字）

隸書のおもしろさが発見できました。

・氏家真 呉蘭雪詩（漢字）

線のゆらぎ、流れを特に意識した。

・大藺香 落華無言（篆刻）

今回初めて大きな作品を作り、何度も彫り直しをし、苦勞しました。思い入れの強い作品です。

・小野寺智寛 臨大孟鼎（漢字）

字間、行間に気をつけて書きました。

・菊池奈津美 寄殷協律（漢字）

流れや動きを意識して書いた。

・工藤歩美 五言律詩（漢字）

流れを出そうと頑張った。

・鞍谷美幸 陸游詩（漢字）

起承転結のある作品にしたいと思いました。構成が大変難しかったです。

・小島慎哉 臨壽成室鼎（漢字）

墨をたっぷり使い、どっしりと書きました。

・坂田梓 晚秋間居（漢字）

文字に変化をつけることを意識した

・佐藤香織 臨金冬心（漢字）

楽しく書くことが出来ました。

・下田葵 真蝶齋（篆刻）

たくさんの課題が出来ました。いきいきとした線が出るように、そして側款も頑張って行きたいと思っています。

・鈴木美香 臨曼殊院本古今集（仮名）

今までの臨書作品の中で一番楽しく臨めた作品です。

・薛中超 淳化閣帖（漢字）

文字の大小、運筆の強さを意識して書いた

・高橋奈々 春夜喜雨

線質や墨の潤濁、文字の大小に意識して書いた。

・田中葉子 月のしづく（漢字仮名交じり）

構成、字形に変化をつけ、表情を出すよう心掛けた。

・津留有耶子 宮沢賢治『かぜがくれば』（漢字仮名交じり）

顔真卿のイメージで書きました。

・中瀬恵利 七夕詩（漢字）

躍動感のある作品にした。

- ・中村裕子 芭蕉の句（仮名）
作品の句は春夏秋冬の順に並んでいます。さまざまに散らしの構成を考えるのが楽しかったです。
- ・根本美穂 金子みすず『星とたんぼぼ』（漢字仮名交じり）
木簡のイメージで書きました。
- ・橋場真実 山吹きのうた（仮名）
墨継ぎや行の流れの構成を工夫した。二×六で横の作品は初めてだったので苦労したが、良い勉強になった。
- ・原田麻衣 臨張遷碑（漢字）
自分らしさを出そうと書きました。
- ・平井宏美 自作詩（漢字仮名交じり）
まだ未熟な作品ですが、王鐸の力強い感じを出しました。
- ・本名久美子 飛龍乗雲（篆刻）
思ったよりも石が硬くて大変でした。しかし完成品を見て、頑張った甲斐もあり達成感を味わうことが出来ました。
- ・前田慎之介 高青邱詩（漢字）
立体感が出るよう意識した。
- ・増田真美 吹笛（漢字）
線の流れ、文字の大きさを意識して書いた。
- ・三上絢子 臨伊予切（仮名）
卷子仕立てを考え、続けて書く中でどのような変化があるのかという実験も含め、夢中で書きました。
- ・山田麻衣子 雪望（漢字）
紙をいっぱいに使って書きました。
- ・横山奈々 温泉待従帰逢う故人（漢字）
一字一字に力のある作品にした。
- ・渡邊由梨 杜甫詩（漢字）
文字の大小、墨の潤濁に気をつけた。

最後に本展実行にあたって特に左の諸君の努力があった。記してここに労をねぎらいたい。

【総括】 氏家真 草地泰大 【会計】 鈴木美香 三上絢子

【作品取りまとめ】 小島慎哉 薛中超 鈴木美香 末岡沙織 下田葵

【係】 末岡沙織 下田葵 伊藤絵美 (案内状等)

小島慎哉 (会場)

草地泰大 (搬入・搬出)

《付記》 表装・陳列には、本年度も三希堂・榎本政春氏、香葉堂・石部千里氏、和田実氏に格別な御協力をいただいた。厚く御礼申し上げます。